

市長と本気で語るタウンミーティング

「言っちゃお！市長と。」

— 第 1 回地域別 —

令和 7 年 6 月 2 8 日（土）

立川市市長公室改革推進課

市長と本気で語るタウンミーティング「言っちゃお！市長と。」議事録
【地域別】西砂学習館（概要）

日時：令和7年6月28日（土）

10時00分～11時30分

場所：西砂学習館 視聴覚室

1 開会の挨拶

（改革推進課長）

それでは、定刻となりましたので、市長と本気で語るタウンミーティング「言っちゃお！市長と。」を開催いたします。

本日はお暑い中、また、土曜日の開催にもかかわらず、ご出席いただきましてありがとうございます。

私は、タウンミーティングの事務局を担当しております市長公室改革推進課長の野口と申します。どうぞよろしくお願いいたします。

本日の予定でございます。酒井市長からご挨拶をいただいた後、意見交換会を行います。意見交換会終了後、酒井市長から閉会のご挨拶があり、11時30分終了予定としておりますので、よろしくお願いいたします。

それでは、酒井市長、ご挨拶をお願いします。

（市長）

皆様、おはようございます。本日は大変お暑い中、また午前中からお集まりをいただきましてありがとうございます。西砂学習館でのタウンミーティングは、去年、2月に行ったばかりということで、だんだん参加者が少なくなってくるなと思いながらも、だんだん不満がなくなってきたのかなと、前向きに捉えることにします。最初に市長に就任をしたときのタウンミーティングは、とにかくたくさん集まっていたいて。当時は意見交換の時間が1時間という時間設定だったんですが、全然時間内に収まりませんでしたので、昨年度から1時間30分に延長いたしました。今日は少しゆっくりとお話ができるのかなと思って、言って終わりではなくて、いろいろと対話ができればいいなと思っております。

前の市長のときの「市長と語ろう」というキャッチフレーズもいいなと思ったんですけども、やっぱり市長が変わったんで、少しはじけてやろうということで、タウンミーティングの名称も変更することにしました。市長と本気で語るタウンミーティング「言っちゃお！市長へ」ではなくて、「市長と」というところがみそでございまして、文句言うだけはやめてくださいと。一緒に立川の未来を考えていければなということで、「へ」じゃなくて「と」という言葉を選ばせていただきました。大変限られた時間ではございますけれども、地域の皆さん、あるいはそれぞれの仕事や生活をされている、そういった皆様の生活の実感の中でのお声をお聞かせいただき、今後の市政の運営に生かさせていただきたいと思っておりますので、よろしくお願いいたします。

2 意見交換

（市長）

それでは、もう順番に、何でも言ってください。

では、どうぞ。

(参加者)

よろしくお願いします。

西砂町3丁目に住んでおります。

大きく2つあります。1点目は、この西部連絡所が年末でもう終わりになるということのようなんですけれども、例えば住民票だとかそういったものを取得する際には、どういうふうになっていくんでしょうかというのが1つです。

あとの2つ目は、学校教育関係です。

ずっと並べていって構いませんか、それとも最初の、今の西部連絡所の件からお話しますか。

(市長)

それでは、先に西部連絡所の件なんですけれども、今、立川市内においては、西部連絡所、東部連絡所、錦連絡所、富士見連絡所があるんですけれども、住民票等々この場所での利用数というのが著しく少なくなっているんです。それに対して、そこに配置をしている職員が、多分見ていただいていると分かるように、とてもどかな雰囲気です。

昨年度、立川はマイナンバーカードの交付率が大体8割といったところまでできています。そういう状況になったときに、実は今マイナンバーカードで、コンビニで取っていただいたほうが、発行手数料は安くなっています。窓口交付に関しては、職員の手数料、それに係る職員の経費ということを考えたときに、かなりコストがかかってしまっている。住民の証明等を取る人と取らない人の公平性の観点がある。コンビニを少し安めにして、窓口はちょっと高くしようということで、料金の改定をさせていただいて。そういった状況の中で、連絡所で住民票だとか課税証明、あとは戸籍謄本、印鑑証明を取るという業務自体は、少なくなってきました。そのことについては、コンビニ等々を利用してもらえるように促していきたいということです。

ただ、僕も就任後、市内のそういった出先機関をまだ市長という面が割れていないときに、ちょっとお忍びで回っていて。ちゃんと市民対応しているのかな、またその窓口でどういう相談があるのかなということを、あちこち行って、市民の方に聞いてみたり、通りすがりの人を見つけると聞いてみたり。あるいは窓口の職員の方に、どういうことでここは頼られていますかという話を聞いたところ、比較的高齢者の方で、何か案内が来ると、その案内について何の書類が必要なのかというところがよく分からないという問い合わせが多いとのことでした。市や都から案内が来ると、案内書を持ったまま相談に来る方がちらほらいるということなので、そういう相談、よろず相談じゃないけれども、そういった部分については、この場合、学習館の窓口もあるので、そういったところで、ちょっとセクションを越えてしまうんですけれども、相談業務については補えるのかなと。それで、連絡所に関しては廃止の方向で行わせていただきたいと思います。

東部連絡所に関しても、あそこは指定管理者なんです。ことと同じように図書館が併設をされていると。錦連絡所は、はぐくるりんのところで、あそこが一番利用者が少ないということがあります。富士見連絡所も著しく利用者が少ないんですが、あそこだけはぼつんと住宅街の中にあるので、その代わりをどうするのかというところはちょっと課題として考えているところです。

（参加者）

ありがとうございます。私も高齢者なので、振込にしろよと言われそうですけれども、税の納付もここでやりますし、それから必要な書類については、まだマイナンバーカードを持っていない2割の人間ですので、結局こちらで発行してもらおうというふうに今なっているんですけども、必要な文書は、マイナンバーカードを持っていませんので、発行していただけるとなると市役所へ行かなければいけないということですね。

（市長）

そうですね。

あと、税の納付に関しては、少しずつではありますけれども、コンビニでの納付というのもできるようになっていますので、マイナンバーカードを持たれていない方には大変申し訳ないんですが、年間本当に数えるほどの利用者数しかいないというところで、その部分については費用対効果という部分では考えさせていただかざるを得ないということで考えています。

（参加者）

分かりました。仕方ないですね。状況はよく分かりましたので、しょうがないなというふうに思います。

次に、学校教育関係ですけれども、学校教育関係は3点でございます。1つは、例の三小の事件ですね。市内の小中学校の安全体制というはその後どうなっているのかというふうなことを伺いたいのが1点。

2点目ですが、学校施設の問題です。施設の問題はいろいろあるので、あまり広げると終わらないかもしれないけれども、1つは、七中の体育館がようやくできまして、お披露目のときに私も行かせていただきまして、非常にいい体育館になったというふうに思っていますけれども、ちょっと時間がかかったりしたような感じもしますけれども、できたものは非常によかったなというふうに思っているところです。

そういった施設、ほとんどの立川市内の小中学校の建設年次というのは、昭和30年代、それから40年代の初めぐらいで、そうするともう50年過ぎているわけですね。何とか計画というので順次進めていただいているようでもありますけれども、やっぱり古くなるといろいろと学校も問題が出てくるんじゃないかなというふうに思いますので、できるだけ早めに全体的に、改修なのか、新築なのか分かりませんが、今後進めていただければいいかなと思っています。

その七中の体育館の新築のときに、結局工事が、生徒の安全のためにもあるんでしょうけれども、どうしてもグラウンドが狭くなっていたんですね。2月に竣工、3月にお披露目式があって、それでもグラウンドが全部使えるようになるのかなと思っていましたらば、仮設の体育館の取壊しがまだ残っているというので、やはり工事車両の場所というのかなり取らなければということで、今年の七中の運動会、5月に予定されていたんですけども、実は雨で、結果的にはできなくなっちゃったんですが、かなり狭いんですね。中学生がやるには狭くなっちゃって、その辺でいうと、何か工事の計画と学校の行事と、特にグラウンドなんかを使う行事についてはうまい具合に組合せをしてというのか、していただけないかなというふうなことを思いました。

施設に関して言いますと、もう一つ、七中の場合には体育館の建て替えのときにも、その工事囲いの内側に入っちゃったんで、プールが使えなくなったんですよね。いつからプールが使えるようになったのかはちょっと分かりませんが、プールが使えなくなってしまって、今の中学3年生というのは、今年は使っておりますが、去年はほとんどプールを使っていないんじゃないかなと思うんですよね。そうすると、ちょっと学校の体育の水泳の授業のカリキュラムはどうなっているのかよく知りませんが、うまい具合に使えるような形で、やはりそういう工事とのタイミングですとか、組合せをうまくしていただいて、できるだけ学校の教育活動に影響がないような形にさせていただければなというふうに思います。

この地区ではないんですけれども、今、二小と高松学習館を一体化するような工事を、まだ始まっていないんですかね。もうそろそろ始まるんでしょうか。

（市長）

うちの子どもが行っているのがその学校なんですけれども、この次の土日に説明会をして、仮設が取りあえず今年度中に始まるということです。

（参加者）

ということだと、やはり七中の体育館を新築するよりもっと大規模になってくるし、長くなりますので、やはり子どもたちの教育活動にできるだけ影響がないような形で進めていただければなというふうに思います。

ちょっとホームページで計画図を見たんですけれども、あの計画図だと、プールがどこにあるのかもよく分からなかったんですが。

（市長）

二小ですか。もうプールは造りません。

（参加者）

造らないんですか。

（市長）

はい。今、西砂小学校もここで書いてあるんですが、民間のスイミングスクールに委託をするような形で小学校には伝えていきます。熱中症警戒アラートの問題もあったりだとか、あるいはプールを維持管理するのは大変ですし、教えるほうの技術力の問題があって、変えたほうが、いろいろといい悪いというのは当然あるんですが、これもうちの息子の話で申し訳ないんですが、二小は早めにそういうふうに切り替わっていたので、意外と評判がいいよという話があります。

（参加者（質問者とは別の方））

松中へ行っているうちの娘も、すごいよかったって言っています。

（参加者）

二小はもう既に、現実的なプールがないんですか。

（市長）

現実にプールはあるんですよ。あるんだけど、そこは借地なんです、二小のプール。建て替えたときに、半分ぐらい借地で、半分ぐらい市の土地なんです。だからもうプール部分は返しちゃったほうが、支払もなくなります。あと西砂もやったのは、あそこ西砂地域って、今、子どもが増えているじゃないですか。教室が足りなくなっちゃっているということもあって、前の教育長とも話をして、もうプールのところにしかプレハブを建てるにしてもないので、早くそこは移行しちゃって、場所は作っておいたほうがいいんじゃないのかと考えました。小学校のプールについてはそういった状況です。

（参加者）

それから、3点目、クラス編成についてです。これは、文科省というか、国のほうのレベルでもう移行の方向が法律で定められて、今年の小学校6年生で完全35人学級に移行すると。それから、来年度の中学、今の小学校6年生の学年からずっと35人学級が、小学校1年生からずっと6年生までやってきて、今の6年生が中学校へ入ると、中学生も35人学級へ移行するというふうな形になっております。

ホームページで在籍数というのも出ていたので、立川市内の小中学校、それを見ましたらば、中学校の1年生は、国のレベルでいうとまだ40人学級なんですよ。ところが、一中、四中、五中、六中、九中については35人学級を選択するというふうな注意書きが出ていて、ということは、35人学級に今の中学1年生もなっているということなんでしょうか。それが1つ質問です。

それから、選択という言葉が出てきていますが、これは学校のほうがこうしたいと言えば、市の教育委員会のほうでオーケーを出してくれるということなんでしょうか。

それから、クラス編成のことで、先ほど言いましたけれども、人数、国で定められた人数があるわけですが、例えば今年の例で申しますと、一小の1年生は66人だそうです、5月1日現在で。これだと、35人が上限ですので、割って33ですから2クラスになりますね。しかし、1年生のことを考えると、中学校で35人学級を選択できるというふうなことであるならば、小学校の1年生ぐらいはもうちょっと規模を小さくして上げたほうが、先生方にとっても、あるいは子どもにとってもいいんじゃないか。その辺の融通性はできれば、立川市は取り立てているのか分かりませんが、やっていただけないかなというふうに思っているところでもあります。というので3点、すみませんでした、長くなりました。

（市長）

1点目の三小の事件を受けての対応なんです、学校の犯罪管理という観点からいうと、主体は教育委員会になるので、教育委員会の対応と、私の考えているところをお話をしようかと思います。教育委員会の対応としては、原則は施錠をしよう。この4月から教育長になられた飯田教育長は、もともと小学校の校長先生と、最後は二中の校長先生、教育現場を歩んでこられた方です。立川では教育者が教育長になるのは初めて、庁内登用ではなくて、僕自身が、小学校と中学校の校長先生を経験されている方って東京都内では結構珍しい方なので、そういった方に立川市の教育のことをやっていただくと、いろんなところに目配せができるのかなということをお願いをしました。校長先生、教育長とも話をしていると、実際に不登校の子どもがいるじゃないですか。やっぱり遅れてくるお子さんもいらっしゃる。そこは、地域に開かれた学校が、物理的なのか、精神的なのかという話も今いろいろと論調が変わってきている中

で、ただ、その一方で門が閉まっていて、チャイムを鳴らせばいいじゃないかということだけではない子どもの対応というのはある。

また、あわせて、学校給食の無償化、立川は僕が市長になってからさせていただいたんですけれども、副次的な効果として、学校によっては、共同調理場で食べに来ませんかというのをやっているんですが、学校によっては、給食だけでもいいから食べにおいでよ、タダだから。事前の申込みも、それだけでもいいからということで、中学校とかでも何人か来られるようになったと。そういった子には、ちょっと門戸を開けて、ふらっと来てほしいと。その一方で、変な人にはふらっと来てほしくないという、そこのはさまをどうするか。

電子錠という話もあって、市内の一小と、あとは若葉台小学校はたしか、僕の知るところでは電子錠になっているんですよ、たしか。比較的新しく建て替えをしたところはなっているのかなと。だから、そことの関係をどうするのかということ、今考えているところです。

ただ、もう利用者さんに言われているように、鍵をかけておけば、そこを狙い撃ちをしていく不審者じゃなければ防ぐことはできると思うんですけれども、今回の三小の事例は、ニュースで聞いている範疇のことしか僕からはお伝えはできないんですけれども、もうそこに入ることを意図している人間に対しては、幾ら門扉を閉めても、乗り越えようと思えば乗り越えられますし、保護者の方と一緒に来れば入れちゃうというところで、それが完全ではないだろうと。だから、電子錠でどれぐらいで制御できるのか。

あとは不審者対策の訓練についてです。これはどこの学校でも、うちの息子も去年やっていたと言っていたんですけれども、不審者が入ってきたときの、三小の子たちはほとんど（対応が）できていたみたいなんです。不審者が教室に入ってきたら、とにかく教室から出る。周りでそういうのがあった場合には、要は引き戸になっていますから、鍵を閉めて、机と椅子を全部入り口に寄せて、バリケードをつくって入ってこられないようにするという訓練をしているそうです。うちの息子にある日帰ったときに、（不審者対策の訓練を）しているかと聞いたら、（息子が）Fのことでしょって（答えた）。Fって何かというと、不審者のことなんです。二小の子はFと言うと、子どもたちはぱっと行動することができる。事件のあった三小では何人かの生徒さんは逃げ遅れてしまったということなんだけれども、子どもたちは訓練をしていると、かなり反応は早いのかなという、我々大人よりも。

その上で、入らないようにすることも考えなくちゃいけないんですけれども、僕の中では、全部完全には防げないと考えています。それでは、入られちゃったときに、どう子どもたちの安全を守るのか、先生の安全も考えると、先生に体を張れとも言えないじゃないですか。結果としては、よくやってくれたんですけども。さすまたは、1人でやっても意味がなくて、持たれちゃったら逆に振り回されてしまいます。さすまでも今いろんな種類があるので、比べて見積りを取って、それが本当に使いこなせるのかも検討する必要があります。

あとは、110番への通報（ボタン）も、今は校長先生の机の下にあるらしいんですね。ボタンを押せば。でもそれは、1つだと危険だねって。複数用意したほうがいいんじゃないかと考えていますが、幾らかかって、どういうふうにすればできるのかというのを、今研究をしています。

今回のニュース上で流れている範疇では、子ども同士のトラブル、これってどこの学校でも、いじめの問題というのは表に出ている案件もかなりあるんですけれども、学校が把握をしている、把握をしていない案件もあると。子どものけんかに昔は親は口出すなどと言っていましたけれども、今の時代は口を出さないと子どもは死んじゃうかもしれないということもあるけれども、口を出し過ぎると今回のような話にもなりかねない。

でも、いじめはいじめでやっぱりやめさせなくちゃいけない。そこに、学校というところは人間関係を構築するところなので、教育的な見地で対応していくから、どうしても時間がかかる。時間がかかると、その子の苦しみは取れないし、保護者の不満は当然募る。

学校と行政で、とにかく早くいじめをやめさせるというようなことをやるとしたら、皆さんもニュースで見られているかもしれませんけれども、寝屋川市は監察課というところで、1か月以内にいじめはやめさせるという事例があります。4月に寝屋川に視察に行って、市長さんといろいろ話をきて、どういういきさつでそういった制度を入れたのかとか、その制度を入れるポイントとか、みそだとかというところを聞いてきました。監察課というところとおどろおどろしい響きもありますが、それは抑止効果を狙っているということでした。

立川市でも、子どもを守る課みたいな、子どものいじめを絶対に許さない、人権侵害は許さないということを、実力行使ができるような、そういった組織だとか制度だとか体制というものをつくっていく必要があるのかなというのは、今、僕の中では考えています。僕がやりたいと言っただけではできないので、教育委員会とも相談し、新たに職員をちゃんと確保しなければできませんし、入っていったらやめさせるという根拠条例も作る必要がある、そんなようなことを考えています。

次に、学校施設についてなんですが、七中ってすごく時間がかかったんですよ。原因は資材不足だったんですが、国交省のほうから、そこは全国の自治体に大目に見るよという話だったんです。それではしょうがないと。

二小は何とかようやく決まったんですが、その次は五中の予定だったんですよ。五中は、入札の不調ではなくて入札の中止、どこも建設会社が興味を示してくれないということで、プロポーザルにしても駄目だったのか、誰も興味を持って、前の市政のときには、こっちのほうがお金かかんないでしょうということでやったんです。デザインと建築を一緒にすると。でも、それって業者からすると、負担じゃないですか、入札の書類を作るにも。だから応募者はいないんじゃないというので、もうデザインビルドの考え方はやめ、設計は設計で発注をする、建築は建築で発注をする。ただ、設計だけしても、建築をしてくれるところがないと絵に描いた餅になってしまう。

ただ、これは立川だけの問題ではなくて、これは全国的に今建設は、中野サンプラザの例に見られるように、昔でいうと発注元が強かったんだけど、今は受注側のほうが強くて、二小とかの入札も1回不調になり、入札でなくて、最後、プロポーザルに、もう2度入札して駄目で、3回目プロポーザルにして何とか。そうすると、当初の予定額の4割増しとか、だんだんそういう形になっちゃって、懐的にはもう成り立たなくなっちゃっているんです。

そうした中で、今本当にこの計画どおりに建て替えをしなくちゃいけないのかどうなのかという、コンクリート内部伝説ってあるじゃないですか。だから、本当にコンクリートって駄目なのか、使えるんだったら、建て替えよりも大規模改修なのか、中規模改修なのかというふうにしたほうが、工事を受けてくれるところがあるんじゃないと。子どもたちにとっては、ある

意味、躯体はしっかりしていればよくて、中の要は、極端な話をすれば、机と椅子とか、水回りがきれいであれば、そのほうがいい。パーソナルスペースがきれいなほうがいいんじゃないのと。だからそこを今、区分け検査をしているんです。

市長公室長が発案者で、実際に何か風説で言われているだけじゃなくて、今年度中に全部調査をして、「ここはもう無理だよね、建て替えをしましょう。ここは躯体が大丈夫だから、中規模改修、大規模改修しましょう。」という形に切り替えていくように、再編計画ストップをして、根本的に考え方を改めようということで今やっています。

七中の工事もそうだったんですけれども、二小も、うちの子のことばかり言って申し訳ないんですけれども、プレハブが建つというのがあるので、運動会は5月のうちにやっちゃっていて、秋以降はもう駄目だからというところで工事の調整はしてもらいながら、教育委員会の中で、学校スケジュールとどういうふうに調整をしていくのかという。ただ、調整をしても、計画どおりにいかないというところは大前提になってしまっているというのが、本当に悩ましい話です。

ただ、お近くだと松中小学校の中規模改修か、松中は、一応契約者がいます。五中が駄目、二中は何とかなり、その後の三中、三小も、先が見えないということなので。

（市長公室長）

西砂小はコア抜き調査しています。

（市長）

西砂小はコア抜き調査ということの結果をもって、建て替えなのか、改修なのかということ考えていきます。気分じゃなくて、計算結果に基づいて。ほかの学校でも、結構それはうれしいなと思っているんですよ、子どもたちが僕に結構直訴する。東のほうの砂川エリアの学校を、教育長と一緒に、わざと見えるように見に行って、市長も教育長も来てくれるんだと言われました。（学校を見に行ったら）雨漏りしている感じが確かにひどいねと、それも何とかしてあげたいんだけど、当時6年生から直訴されたので、その子たちが在学中は改修できず、市長としても苦しい思いをしました。

最後に、クラス編成について、これは東京都の教育委員会と市の教育委員会とが、職員は全部東京都の職員で、今東京都も教員不足で、なかなか数がそろわない。ただ、方向性からいえば、学年の人数が71人以上になると20人ずつぐらいのクラス編成になるが、おっしゃるとおり、70人になると35人になってしまいます。ただ中学校に関しては、35人学級に、文科省のほうもそういう方針を出しています。

（市長公室長）

令和7年4月7日現在で、一、四、五、六、九中が35人学級を選択しているという表現なので、本当は2026年度からですけれども、前倒しで既に選択をしているという表現だと思います。

（市長）

それでは、地元の学校を通して、教育委員会の意向を東京都に言って、東京都が教員配置を、1人増やせる可能性があるわけですか。

(市長公室長)

はい、そうです。

(市長)

ただ、あとは今後の再編計画にも関わるんですけども、中学校も少人数化していくと教室が足らなくなるという、ハード面の問題があります。今後、今の施設の活用もありながら、建て替えをしているときに、前までの計画は2割削減という、20%ダウンサイジングするという計画でやっていたんですが、取りあえずそれじゃ無理でしょうと。せめて、建て替えをする時は、空き教室を余裕を持って作っておく必要があります。場所によっては、特に西砂地域と二小のように、人口が増えているところは心配なのかなということです。よろしいですか。

(参加者)

最後に、1つだけ。中学校35人学級については、去年、昨年度四中と五中は1年生35人学級選択、去年からもう始まっているんですね。ところが、その四中と五中の、去年の1年生ですから、今年だと2年生に関してみますと、四中だけみたいですね。その辺の何か、人がいないのかどうか、教員の数の問題なのか分かりませんが、せつかく35人にしたのであれば、そのまま上に上がっていったらいいなと。

(市長)

教育委員会の担当なのでちゃんと把握していないんですけども、僕の認識の中では、国の法改正、基準の改正の中では35人学級に順次繰り上げていくということです。ただ、その一方で、東京都も教員の成り手がいないということで、ほかの都道府県と取り合いで辞退率が結構多いです。採用試験の日程がどんどん前倒しで青田買いになっていっているところで、東京都もそれをやらないと難しいと考えています。

連絡所の話にも関連するんですが、教員だけじゃなくて、市の職員自体も今欠員なんです。これだけのサービスをしたいから、定員をこれだけ定めて採用を行う。しかし、4月1日にスタートしたら、辞退者も出たり、あるいはすぐ転職したりしてしまいます。経験者採用で立川市があんなに好きだと言っていたのに、3か月で退職してしまった例がありました。

自治体の職員も、ほかの自治体から受ける、立川の人も、例えば東京都を受けて、転職してしまいます。また、受験生自体も減少傾向です。そこが今、一番苦しいところで、何か手立ては無いか考えています。大体西から東へと（職員が）流れていくというのは、どこの業界でもね、同じということで、武蔵村山の副市長さんとうちの副市長さんの話では、両方受けて受かると、立川に取られてしまうことがあるそうです。しかし逆に、立川ともうちょっと東のほうと一緒に受けると、両方受かると向こうに行っちゃうというところ課題です。

(参加者)

ありがとうございました。

(市長)

ほかに、ぜひ。お願いします。

（参加者）

私は、立川二中出身で、武蔵村山東高校で、市長、先輩だなんて。

（市長）

めちゃくちゃ後輩じゃないですか。

（参加者）

市長が市長になる前から、勝手に親しみというか親近感を持って、先輩なんだなと思って。

ずっと私は親しみを持っていたところで、本当に市長が当選してすぐに、公約どおりに給食費も無償化してくださって、すごいうれしかったです。実は、私も立川市じゃない、ほかの自治体の職員をしているので、そこで私、子ども家庭支援センターで勤めていたことがあって、それこそコロナ禍で、私の担当してきたお子さんが、小学校5、6年生だったんですよ、そのとき。（その子が）駅の前でサラリーマン風の男性に声をかけて、1,000円くださいと言って、そのサラリーマンの男性が、全然あげてもいいんだけど、困っているなら警察に行かないと言って警察に連れていってくれて、そうしたら晩ご飯を買うお金が本当にもうなかった。お母さんは帰ってこないしということで、そのまま見守るようになって、その子は衣食住は守られる生活になったんです。

コロナ禍って、学校がなくなってまず起きることがこんなことなんだというのが、すごく私、何かショックだったんですね。子どもが好きでなっている職業で、ご飯も食べられなくて、本当に給食がないとこういうことになるんだというのを実感していたところで、酒井市長がすぐに給食費を無償化してくださって、さっきのお話の中にもあったけれども、やっぱり不登校の子とか、きつと行くきっかけになっていて、門扉が開くというのも、私も不登校の子の登校支援をしていたことがあるので、開いていたねと言って、入ろうと言って、閉まっていると、やっぱりきつとある中で、そういった給食というのがすごく子どもたちに大事なところなんだなと思って、すごくうれしかったです。まずは、そのありがとうございましたというのをお伝えしたくて、来ました。

あとは、本当にお願いというか、私が立川市で暮らしていて、いろいろ思ったことというか、お願いごとですね。これ、どこに言えばすぐやってもらえるのかなということがあって、一番最近、直近で思っていたことが、公共施設というか、トイレですね。中でもすごい気になった出来事があったのが、砂川中央グラウンドってありますよね。南北道路から上がっていった先に、大きい野球のグラウンドで、日中は多分、高齢者の方がゲートボールとかを楽しんでいるような、そういった施設なんですけれども、あとは野外の施設の多くが、やっぱりトイレ事業が結構ひどい環境でして、あそこの砂川中央グラウンドは、仮設の和式便所が2個と、むき出しの水洗が1個あります。

うちの娘が野球をやっていて、練習や試合などでここを利用させてもらうんですけれども、男の子とか、男性は多分そこまで気にならないと思うんですけれども、女の子は和式便所、しかもドアを背にしてしゃがんで用を足したり、中には生理になっている子なんか本当に悲惨なもので、女の子たちは砂川中央、行きたくないなと言っています。トイレが心配で、練習とか、野球が嫌になっちゃう子が結構いるのが、私は親としても、地域の大人としても、残念で、そんなことで嫌いになってほしくないし、行きたくないなと思ってほしくなくて、一緒にコン

ビニのトイレへ行こうと声をかけて、行ける日は一緒にフォローしたりとかしていたんですけども。

スポーツをやっていて、そういう心配がなく楽しめる環境の整備ってすごい大事だなと思って、立川市の中のスポーツ推進計画の中でも、やっぱり公共施設の管理マネジメントが施設の環境の向上に取り組むというところで、なかなかトイレとスポーツってかけ離れているように思われてしまいがちなんですけども、実は子どもたちとかの中では、すごくダイレクトな問題です。和式のしゃがむトイレなんて、私もちょっと膝が悪いので、やっぱり利用しづらいです。

(市長)

最近はどうね、家に（和式のトイレが）ないですからね。

(参加者)

改修や改善について、議員さんをお願いしたこともあったし、市のアンケートにも書いたこともあったんですけども、なかなかやっぱり直らなくて、砂川町のトイレって。どうしても声を上げる人も少ないし、使っていて慣れている人はそこまで気になんないのかなと思いました。やっぱりこれ女性目線というか、子どもを抱えている人とか、そのトイレを使って不便だなと感じるという人が、なかなか声を上げていないのが現状なのかなと思って、直接市長のお耳に入ったらいいかなと思って、今日このお願いにまいりましたというのと。

公共施設、学校の老朽化について、うちの娘、松中小に行っているんですけども、佐藤校長先生が中規模改修をいろいろやってくださって、各教室の電気、全部LED化してくれて、それで娘は教室が明るいんだよね、ママって言って、それだけでもすごい喜んでいて。佐藤校長にそのことを言ったら、「校長としてはまだまだ、本当は全部直したかった、でもやっぱりできなかった。でも、環境を整えるのが管理職の仕事、子どもたちや先生のために環境を整えるのが大人の仕事だ」と校長先生がおっしゃっていて、本当にそのとおりだなと思いました。だからぜひ、私も地域に暮らす大人として、そういう公共施設、自分が気づいたところのトイレとか、そういう環境、めちゃくちゃきれいにしろというわけじゃないんですけども、ちょっと見ていただきたいかなと思って、そのお願いですね。公共施設や公園のトイレの現状というものをお伝えしたく、参りました。

あとやっぱり立川の西、こちらは住宅、西砂小もそうですけれども、松中もやっぱり畑がどんどん家になって、住宅が増えて、そうすると今度交通量が一気に増えて、皆さん出勤とかで車を使ったりするので、今まで本当にのどかだった道に、通学路もばんばん車が通るようになって、危ないなと感じる場面も少し増えて、多分そこが抜け道で出ちゃったりもするんですよ。何か、スクールゾーンにしてほしいというので、警察に相談に行きましたが5年かかってまだ改善されなくて。子どもの通学路の整備や編成とかというの、いろいろ相談をされていてなかなか現実としてできなくて、うちの娘の同級生の子が、何年前だろう、3年前の12月に交通事故で、肺挫傷で、本当にすぐ近くのところなんですけれども、結構大きな事故に遭ってしまいました。

信号のない丁字路だったんですけども、何かそういう信号とかスクールゾーンとか、そう

いったことも少しずつ整備できる立川市で、子どもがとにかく安心して学校に通える立川市の未来みたいなのが私の理想かなと思っていて、そこは言っちゃお！市長にと思って、今日はお願いにまいりました。

なので、私が伝えたかったのはその2点、3点ですが、あと、スイミングスクールの業務委託、これもめっちゃめっちゃ喜んでいたので、ぜひ全校でと思います。

（市長）

公共施設のトイレの問題なんですけど、学校も、こういった施設も、順次改修に併せて洋式化しています。

（参加者）

砂川中央グラウンドは、本当にすぐやってもらいたいです。

（市長）

砂川中央グラウンドに関しては、秋には予定どおりちゃんとできてほしいというのはあるんですが、砂川中央グラウンドのところが悩ましいのが、国から暫定で借りているということで、ネット1つ高さを変えるのにも、国に許可を取らなくちゃいけなくて、だから多分あれ堅牢なもの、固定物をあまり造るなみたいな話があるんだよね。

トイレだから高さはこういうことはないんだろうけれども、すぐ、要は何かあったら返せと言われたら、返せますよという形なので、簡易なものになってしまっているということで、ちょっと何かしらの方法が、大体国からも文句を言われずに、利用者にとって少しでもよくなれるような部分を考えているところです。

災害対応で広域連携などでトイレカーってあるじゃないですか。まだ確定した話ではなく、実際納入されるまで時間がかかるんだけど、災害じゃないときは置き場所の一つとしてここはありなのかなという。

ただ、災害とかで広域相互連携の中で、みんなでアライアンスを組んで、何かあったところに行きましょうということなので、立川市で何かあったときには周りから来てくれる代わりに、どこかに何かあると出ていっちゃうから、ずっとそこにいるわけではないという問題があります。

あと、信号の件、これ市だけではできなくて、警視庁なんです、交通管理者って。信号に関しては、東京都内、警視庁管内で大体新設だとか何とかって100基分ぐらいなんですよ、予算が。東京都内、100か所弱ぐらいの警察署があるので、そうすると1警察署当たり1か所ぐらいの予算なのかなという。

（参加者）

厳しいですね。

（市長）

そうすると、順番が回ってくるまで時間がかかってしまいます。これ、嫌な話なんだけれども、人身事故だとか、そういうことが起こったりすると、当然すぐついたりする場合もあります。またほかのところが、横入りしてくる場合もあるので、そこはちょっと東京都の予算なの

で、立川市から、ここあれなんお願いしますということは、要望はするんだけど、決定権がないので。

スクールゾーンに関しても、市が頼むだけではなかなかできなかったのが、国分寺との、市境の、南砂小学校だったんですけれども、スクールゾーンをつくと、車が国分寺の住宅街のほうに流れてしまうので、そうすると立川署と小金井署の2つの管轄になると、立川署にだけ言ってもなかなか作ってもらえませんでした。警視庁の本部に働きかけて、都議会議員時代に何とかしたんですけども、何とかできたのは、地域の周りのスクールゾーンにする近隣人たちがみんないいですよって言ってくれたからなんです。

警察はなかなか交通規制するのも、解除するのも、その沿線住民の理解が得られないとできないというところなので、市にご要望をいただくと、警察には送るんですけれども、なかなか難しいところがあります。

あとは、この西砂町地域で、昭島のG L P、物流センターとデータセンターで交通量が増えるんじゃないかと、特に西砂小学校、宮沢中央通りだとかのところの問題については、せめて通学時間帯は交通規制をかけられないかというお話があります。地域のあのエリアの「ゾーン30（時速30キロの速度規制）」の設定はお願いをしつつ、僕のほうから、立川警察署長にちょっと取り次いでもらって、警視庁の交通部長のには、せめて朝の通学時間帯の規制ができないかということの依頼はしています。ただね、警視庁に言わせると、予防的な規制はできない。実際にできてみて、どれぐらいの交通量が実際に発生をして、どういう危険性があるのかということが顕在化されないと、規制というのができないのはご理解くださいという。こちらは予防で規制してほしいんですけども、なかなかそれはちょっと警視庁のほうで首を縦に振ってくれないというのが現状です。

よろしいですか。

（参加者）

ありがとうございました。よろしくお願いいたします。

（市長）

ご家族でいらしていただいている方、何かありますか。

（参加者）

先ほどの方の話と少し関連することなんですけれども、生活道路の安全という話で、私は栄町のほうなんですけれども、自宅が、ららぽーとに行く車が結構抜け道で住宅街を通っています。一時停止線はあるんですけれども、外から来た車だとそういうのを知らなくて、止まらずに行ってしまったというような、結構危ないなと思っています。

あと、南部公園のあの辺り、子どもたちが遊んでいるんですけれども、ここは通路があって、走る車とかも多いので、危ないなという市民としては感じているんですね。

それで、道路にバンプを設置することはできますか。

（市長）

バンプはね、あれをつけると振動が来て、周りの家から苦情が来るんです。けやき台団地の真ん中の通りはやっているんですけども、昔バンプをつけて、速度抑制をしたじゃないですか。

そうするとがたんとなるじゃないですか。すると、そのがたんが周りに響いて苦情が来るんですよ。だから、最近あまりバンプは設置していません。

他に市ができることとして、視覚的に、要はこっち側から走ると何かブロックが浮いているように見える、トリックアートみたいなラインダーをつけるというのがあります。視覚的に何か迫ってくるように見えるから、速度を落とすというのは、場所によってはできるのかなという。なかなかね、バンプはね、最初は僕もバンプつければと思ったんだけど、後で逆トラブルになるようです。

（参加者）

そうなんですね。

（市長）

注意喚起の看板を設置しても、無視されてしまうじゃないですか。だから本当は、一時停止確認などをたまに警察に取締りをしてもらえないかと考えています。ドンキホーテの裏のところとか、何か所かを。

立川警察のほうにも、南部公園だとか、それはもう言うてはあるんだけど、ちょっとスピード抑制という観点からは、「ゾーン30」という形で30キロ制限速度が、そういうものも書いてあるのかな、あそこは。視覚効果として何かできるというようなことがあれば、これもまた警察相談して何が効果があるのというところは相談させてもらいたいと思います。

（参加者）

あと、二中の前の、自衛隊から二中のほうに行く通りが、道路の幅が狭くて。ガードレールとかつくれないんですか。

（市長）

あそこは今、道路計画があって、それは賛否あるんですけども、柴町にお住まいなのでよくお分かりかと思いますが、マンマパスタがあったあたりに、今パナソニックホームズあるじゃないですか。あそこら辺から左に回って、二中と自衛隊の横から、そのまま南口の羽衣町の、将来的には昔の甲州街道まで、かなり用地を空けることになっており、買収は進んでいます。立川市も、二中もセットバックして、裏の駐車場もセットバックをして、さらに自衛隊も、セットバックする約束になっています。

二中の子どもたち、バス通りで危ないじゃないですか、本当にあそこは。だからせめて競輪の駐車場にしているところ辺りは、先行してもいいのかなと。先に造っておくというね、そういうことはあるのかなと考えています。

ただ、これも市長として言いにくいのは、自衛隊の中でも反対と賛成があります。また道路計画の関係で、丸々道路にかかっている家は賛成で引っ越しをする。家に一部だけかかっているというところは、それはやっぱり切ないじゃないですか。そうすると、どっちの味方にもなりづらいよなというところがある。地元の議員さんも多分そうだと思う。全体の公共の利益のためにすべきだという人と、個の利益を守るべきだという、そのどっちにしてもということがある。

本当は早く自衛隊にセットバックしてほしいんですよ。ただ、それ都道なので。せっかく都の建設事務所は立川の柴崎にあるので、そこの所長には一生懸命話しています。また併せて、

交通安全対策、子どもの安全についても伝えさせていただきます。

（参加者）

同じく栄町に住んでいる者です。

私のほうからは、2点、市長にお願いさせていただきたいんですけども、1点目が給食ですね。学校給食に有機農産物の導入を検討していただきたいというのが1つ。

あと、2つ目は、立川市でも結構農業をされている方はいると思うんですけども、そうした農業をされている方への補助金、補助をもっと大々的にやっていただきたいというのが2つ目です。

なぜこれをお話するかというと、私のほうは医療者ではあるんですが、現在メンタル不調、うつ病とかパニック障害とか、統合失調症、その方たちを根本的に治すという支援をしているんです。加えて、発達障害とかのお子さんもすごく増えていらっしゃるんですけども、それも根本的に治せるんですよ。これ、医療では知られていないんですけども、ここに関わっているのが実は栄養の問題なんです。これ、医療でなぜ知られていないかというと、お医者さんが知らないんですね、実は。医学教育にそうした栄養を学ぶということがないので、カリキュラムにないんで、医療では分からないんですよ。なので、医療現場では知られていないんですけども、これ実際に栄養がつくようにしっかりとがっちり食べていくと、治っていくんですよ。発達障害のお子さんも治ります。結果的に、これってやっぱり教育現場を助けることにもなりますし、それ以上にお子さんがやっぱり人生豊かに送れるというのはあります。

なぜ、有機農産物を提供していただきたいかというと、やっぱり農薬の影響というのがすごく大きいんです。一番は加工食品が戦後増え続けたというのが要因なんですけれども、この農薬とかによって大事な栄養素とか、大分落とされてしまう。戦後、やっぱりこれだけ食は豊かになっているけれども、これだけ病気が増えているというのは、実は農薬が関係しているんです。

例えばお子さんに限らず、暴力性とかかんしゃくがひどいとか、こういうのも（適切な栄養の摂取によって）必ず落ち着いてくるんですね。実際に、息子が、発達障害はないんですけども、やっぱりすごくかんしゃくがひどかったりとかあったんですけども、改善が早いんです、すごく。もうがっちり栄養を入れると、本当に2か月とかもあれば全然変わります。これは、うちの息子に限らず、支援させていただいている方もそうですし、実際にそのお友達とかも皆さん本当に2か月以内に変わっています。お母さん方も驚いています。

先ほど不登校のお話もありましたけれども、不登校は全国で40万人を超えていますし、大人のひきこもりも140万人を超えています。こうした要因に、朝起きられないとか、やる気が出ないとかありますけれども、これがやっぱり栄養なんです。実際に、私が支援している方で、18歳のお嬢さんが1年半引き籠もっていたんですけども、私のことを知ってくださって、取り組み始めたら、2か月しないで普通に社会生活ができるようになっていくという方もいらっしゃいます。これ、不登校の要因として、自分で調べたんですけども、学校というところ、いじめとかそういったところが目につきがちなんですけれども、実際、親御さんとか生徒さんの何で行けなくなったのかという理由、独自に民間団体が調査した結果ですと、これ断トツに、もう7割から8割、皆さん体の不調があるんですね。朝起きられないというのはもう確実にありま

す。

なので、社会的な背景ももちろんありますけれども、体の問題を解決していくと、本当にあらゆるものが改善しますので、はっきりと結果が出ています。なので、立川市の学校給食を私も見させていただいて、インスタなどで見させていただいて、非常に食が豊かなんですね。ほかの大阪とか、本当にひどいところもあるので、素晴らしいと思うんですけども、これやっぱりもっともっと何か、今、国に何かお願いしても、やっぱり進まないことのほうが多いじゃないですか。これを市レベルから変えていってほしい。やっぱり立川市でこういう取組をしていって、こう変わっていったというのを全国の人に知っていただきたいんですよ。そうした意味を込めて、学校給食で有機農産物を少しずつでもいいので導入していただきたいと。

2点目は、それにつながるんですけども、今、米が不足しているとか言っていますが、これは国が減反をし続けた結果です。やっぱり国に任せていてはいけないので、そうした農業の方の支援を大規模にやっていくことで、ほかのところへのアピールにもなりますし、日本のためにこれはつながっていくと思いますので、ぜひ検討していただきたいと思います。

（市長）

ありがとうございます。今の有機農産物の活用に関しては、できることならやったほうがいいのかなと思っています。ただ、立川は今共同調理場になったじゃないですか。そうすると、地場の野菜も使っているんですけども、要はロットがそろわないと、いわゆる調理施設として受け入れられないという話があるらしいのです。

実際に、だからどれぐらい納入、もの自体がどれぐらいまとまって入れられるのかということと、あとは今現状でも食材高くなっている。特にお米が高くなっています。学校給食法では、給食を作るのは行政、食材費は親の負担というふうになっていて、1食当たりの単価って市の規則で決めているんですよ。それはあくまでも保護者の負担ということなので、これは教育目的じゃなくて、福祉目的で今立川市がその負担をなくしているというたてつけなんです。

市の中で検討しているのは、1食の単価についてです。栄養士さんがやりくりをしてくれていて、でもさすがにもう（現状の料金のままでは）無理だということです。品質を落としたり、栄養価を落としたりはしたくないけれども、価格が高くなっちゃっているのを、どうやってそのお金の範囲内でやりくりするのかという問題があります。立川の給食のお米って姉妹市の大町から直接入れてもらっていたんですが、もう大町も出せませんという話になっちゃっています。大町からの米自体も去年に比べて4割ぐらい高くなっていて、学校給食の単価自体を上げないと、もう子どもたちに栄養価を維持したものが提供ができないということです。だから有機野菜の（給食への導入は）、理想としてはね、あるんですけども、費用の面では難しいところがあります。

ただついでで申し訳ないんですけども、今僕不安なのが、参議院選挙が終わった後に具体的になるんでしょうけれども、国が学校給食の無償化、小学校給食の無償化と言っています。これはとても立川市にとっては危ない話で、学校給食法自体を変えて、義務教育の一環として国が面倒を見る。教科書と同じように、すべからく国が面倒を見ると言ってくれるんだったらいいんですけども、国がこういうことをやる時というのは、地方交付税を措置しますと言われるんですよ。地方交付税で措置しますと言われたら、立川はもらえなくなるんですよ。

学校給食の無償化については、1億円ぐらいの立川市としては持ち出しで、あとの大体7億弱ぐらいは東京都が出してくれているんです。東京都の補助は本来国がやるべきことだけれども、国がやらないから東京都が行っている。しかし、国がやるようになったら東京都はやらなくなる可能性があるじゃないですか。国が全部面倒見てくれるんだったら、中学も含めてね、立川は1億の財源が浮くわけです。それで何をさらにできるかなと考えられるんだけれども、国が地方交付税で措置しますと言ったら、立川市は1銭ももらうことができない。東京都も補助してくれなくて、7億円の財源が不足をするから、7億円ほかで節約をして、新しいことなんかとてもとてもって話になってしまいます。だから来年度の令和8年度がどういう予算編成をする中では、その状況が見えないと、新しいことというのは怖くて。

さっきのトイレについては、1回直せば終わりじゃないですか。だけど、ずっと継続して何かの支援をするということに関しては、ちょっと怖くて今手が出せない。有機野菜というのが、学校給食課とも話して、どれぐらいのものだったらロットとして、幾らぐらい単価として増えるのかというところは、研究させてください。

あと、地場産の農家さんとは、地下水のことが風評被害にならないようにということも含めて、緊密に話はしています。あとかんしゃくなどが栄養で治ると、これはどういうふうに、逆に教えてほしいんですけれども。実はね、どことは言わないんだけど、学校で暴れちゃう子がいて、周りの女の子とかにグーパンチとかして、みんなが疲弊しちゃっているというんです。保護者としても話聞かなくちゃいけないのかなと実は思っていて、それはどういう栄養素が足りないんですか。

（参加者）

一番は、たんぱく質、鉄です。この鉄不足というのは、実は産後鬱も関わっていますし。

（市長）

鉄分。

（参加者）

そうですね。これ、もう40年以上前に、日本の物理学者の先生が指摘をされていたんですね。ただ、やっぱりそれが表に出てこなかった。今、現在、精神科医の広島にいらっしゃる先生がそれを広げてくださって、これはあらゆる病気が治るということですが、特にお子さんに関していうと、もうたんぱくと鉄だけで、かなり穏やかになるし、全然違ってきます。

それ以外にもあるんですけれども、例えばADHDとかの場合ですと、これはビタミンB3というナイアシンというものが必要になってきます。ただこれ、実際食事だけでは賄い切れないというのが、実際のところなんです。すごい必要量が多いんです。

（市長）

じゃ、サプリメントみたいなもので。

（参加者）

実際は使っています。ただ、サプリメントってやっぱり皆さんすごく毛嫌いはしてしまうんですけれども、栄養素の抽出物なので。昔は何でそんなものが必要なかったかといったら、逆に加工食品がない、先ほどの農薬とかも使っていませんし。

厚生省が出している野菜の栄養含有量とかを見ていて分かるんですけども、鉄なんかは本当に戦後直後ぐらいからは、もう80%以上は減っています。全然ないんですよ。ほうれん草では全然鉄も取れないし。

これが、なぜかんしゃくとかが落ち着くかというと、脳内の神経伝達物質でそこって安定させているんですよ。それがつくられるのが、たんぱく質とか鉄が特にメインとして使われるんです。なので、ここを補っていくと、本当に落ち着いてくる。

（市長）

ありがとうございます。

ちょっと、だんだん時間が迫ってきて、あとちょっとお二方、せっかくいらっしゃっていただいたのでどうですか。

（参加者）

貴重な機会をいただいて、ありがとうございます。大変聞いていて勉強になりまして、ありがとうございます。

レベルは違うかもしれないんですけども、3点ほど、1つは、要介護の認定率ってあって、公開されている情報ではあまりいいほうではないような感じの推計値なので、ちょっと気になりました。

あと、立川に今後もずっと住んでいくつもりでいるんですけども、活断層について、地震ということについて、あまり情報が、自分でも勉強していないんですけども、どんなことが起きそうなのかとか、その辺がちょっと気になっています。

あとは、男女共同参画ということについて、市長のお考えとかをもし聞けたらなと思って、以上3点です。

（市長）

ありがとうございます。要介護度認定について、立川はいいという話を聞く場合もあるし、悪いというお話も聞く場合もあります。ただ時間がかかっているという話があります。

医師の意見書が出てくるまでに時間がかかるので、うちの主治医の先生なんかも、要介護度認定を取るときには、早めに言ってという話があります。

もう母は他界しちゃったんですけども、要介護度認定が高く出るか、低く出るかということろって、もしかしたら皆さんも経験しているかもしれないですが、（認定調査の時に）頑張っちゃうんです。うちの親父のときも、認知症になっちゃって夜の状態はひどかったんですよ。3年半ぐらい介護したんですけども。でも、人が来たときって昼間来るじゃないですか。いいおじいちゃんになってしまう。

（参加者）

できますって言うてしまうんですよ。

（市長）

うちの母のときには、体の機能低下があったんですけども、おふくろ、頑張るなよと。ふだんどおりにしておけよと言いました。人によると思うんですけども、要介護認定を受けるそのひと自身が、人様のお世話になりたくない、頑張っちゃうと低くなるという。ただ、問題は、国の制度、訪問介護は多分成り立たなくなるのかなという懸念があります。報酬の面で。市内

の施設系は外国人の方も入れてやっている。処遇改善の話を国会議員に会う機会があるたびに言っています。

処遇改善をしなければ、認定はされたけれども、介護は提供されないという状況になりかねません。人によっては、ヘルパーさんのことをもう奴隷のように、召使のように使う利用者さんもいるわけです。利用者さんの尊厳は守らなければならないけれども、介護者の尊厳もちゃんと考える必要があります。利用者さんの意識も変えていかないと、多分成り立たなくなるだろうなと考えています。それを何とか食い止めたいなというふうに思っています。

活断層に関しては、本当のところは僕もよく分らないです。あるという説とないという説が混在をしていて、正確な知見が統一されていないので、何とも言えない。ただ、唯一これ、広聴で言われて、いや、そんなことはないよという話がありまして。立川は地震が起きたときに、立川が震度何とかがって、周りは震度出るのに、立川でないじゃないかって、市長が隠しているんじゃないかとかがって言われたことがあります。隠せるわけではないんですけども。

地震計はね、市役所にも1個あるんです。気象庁につながっている地震計は、どこにあるかは言っちゃいけないんだそうです。ただ、多分地震計があるあたりは地盤が固いのかな。比べてみると、国立だとか国分寺だとか、周りが例えば震度3とかでも、立川は2とかなる。震度にすると1ぐらい、立川は低めに出ているんですね。だから、通常地震のときには、多分立川は揺れが少ないんだらうと。でも、だからといって安心というわけではないというところが、問題かなと。ごめんなさい、確実なことは言えずに。

ただ、いろんな災害の件でも、さっきのトイレカーのことも含めて、完璧というのはなかなか難しいと。でも、完璧を目指して、他の地域とも防災協定を結んで、アライアンスをちゃんと組む必要があります。姉妹市は大町市で、災害協定を結んでいるのは愛知県の幸田町、あとはさいたま市。大体災害が起こったときって高速道路から最初に復旧するじゃないですか。中央道は大町がありますので、東名は幸田町があるよねと。あとは関越と東北道と常磐道の先に災害時協定をお互いに、相互協定を結べるようなところを、友好都市のような形で、ふだんは観光等で交流しながら、いざというときにお互いに助け合えるようなものができたらいいなというので、どこかいらないかなというのを探している最中です。

少なくとも、僕が市長になってから幸田町の町長さんと話をしたのは、お互いに災害時協定を結んでいるけれども、結んでいるだけじゃ意味ないですよねということです。いざというときに、お互い、立川市は何を必要としていて、幸田町は何を提供できるのか、またその逆もあり。お互いに防災課の職員で、お互いに応援できるものの相場をちゃんと合わせておく必要があります。それに基づいて、足りないところがあれば、（幸田町とは別に災害時協定を結ぶ相手先を決めていけばいいのかなということは考えています。

それ以外にも、避難訓練の参加者が最近が少ないから、その辺をちょっと面白くできないかなとかね、あの手この手は考えています。

最後、男女共同参画については、僕は別に男も女もないと思っていて、市の職員、やっぱり男性のほうが管理職は多いんです。でも、僕の登用の中では仕事ができる人というか、僕の感覚とスピード感についてこられる人は、別に男女問わず、普通にこの人、できる、できないとかがっていうことで選んでいるつもりです。

あとは立川市もパートナーシップ、またパートナーシップだけじゃなくて、ファミリーシッ

プの宣誓制度も、制度化をしていこうかなというふうに思います。

家ではちゃんと洗い物をしています。今日も朝、ここに来る前に洗濯もして、干して、シンクの中の洗い物もちゃんとして、来ているので、あまり妻には言うなと言われているんだけど。よろしいですか。

（参加者）

ありがとうございます。

（市長）

それでは最後の方、どうぞ。

（参加者）

ありがとうございます。市長が変わると市政って変わるんだなとすごい実感してまして、すごいいろんな取組をされていらっしゃるじゃないですか。YouTubeだったりとか、ごみ捨てやっていますとか。再生数とか数字で表れているのかなと。

（市長）

全然表れていないのが寂しいんです。

（参加者）

ちゃんとすごい取組もして、評価していますよというのをお伝えしたくて、今日来ました。また今までの話を聞いていて、給食の無償化は、保護者としてはすごくありがたいんですけども、やっぱり生産者さんだったり、流通業者さんだったり、そういう業者さんだったり、何か困ることがないように、課題意識は持ってやっていただいているなと思いました。

あと、私の娘が大山小のにじいろ学級に去年から行っているんですけども、それもすごくありがたくて、今まで学校に行けなかったのが、見学した後に自分で学校に行っているんですね。今、5年生なんですけれども、中学校どうしようと思っていたら、来年度から開設ということで、それもすごくありがたく思っています。

1個だけ、真央リンクができましたね。私もスケートが好きなんですけれども、市内のスケートリンクがある自治体ってそうそうないので、ぜひ小学生、中学生のスケート教室をちょっと開催してほしいなと思います。なかなか都内の学校に通って、学生時代にスケート教室に入れる機会ってなかなかないことだと思うので、あそこの環境的にもばっちりですので、ぜひ検討していただきたいと思いました。

（市長）

真央リンクは、真央ちゃんの何とかスケートスクールって、あれはプロを育てようというスクールなので。そういうプロスケーターを目指すだけじゃなくて、広く経験できるようなことって何かできないのかと、ちょっとこれ、立飛さんのところなので、市が勝手にということもできないので、立飛さんと話をしてみたいと思います。

中学校特別支援学級のほうは今までなかったということなので、それはやろうということで、小学校の増設も併せて令和8年の開設に向けて準備しています。教員の配置については、十分

に教員が配置されない場合もあって、そうするとほかの先生とのやりくりになることもあるので、そこはいざとなったら補助はしていかなくちゃいけないのかなということも、一応想定をしながら進めています。

あとは、それぞれ学校でにじいろ学級だとか、いろんな学級があるじゃないですか。学級がある施設をもうちょっと小ざれいにしてあげたいなと考えています。

僕、さっき言ったように、市長になってからぶらぶら、周囲にばれないように、ふらっと行って、何かここに問題ないかと聞いて回ったんです。最初に行ったときに、中学校の子どもたちが、中学校教育支援センター「たまがわ」っていうところはレースのカーテンがぼろぼろなんですと。周りからお化け屋敷みたいって言われていると。

公立学校に、朝起きて、ちゃんと行けている子は行けている子で、その子たちのためにも広く改良整備をしていくというのはあるんだけど、何らかしらの理由で学校に行けなくなってしまった子どもたちが行くところに、ほかの子たちと同様、特別にお金をかける必要はないと思っているんだけど、小ざれいにはしておかないといけないと考えています。

要は自分たち、大切に思われていないんじゃないかっていうような印象を与えたくないなと思っています。だから、こっちにお金をかけるけれども、こっちにはぼちぼちということが無いようにしたい。ソファ破れている応接室のところに、親御さん、こんなところに子どもを預けたいと思わないじゃないですか。そういうのを現場から聞いていて、別にリサイクルでもいいから、小ざれいなものを選べよという。それで、少しずつは替えていっているんです。

ただ、全体としては、いろんな学級、クラス、学校によってもやっぱり予算に限りがあるので、思っているもなかなかできないこと、また順番が遅れちゃっている、不満に思う方もいらっしゃるかとは思いますが。せめてご高齢者には、この地域で最期を迎えられてよかったって思ってもらいたいし、子どもたちには、自分たちのことをちゃんとこの地域の親、また行政はちゃんと気にかけているんだよっていう環境はつくっていききたいというのが、僕が市長をやっている間の目標であり、意義なのかなというふうに思いながら、市長業務に取り組んでいます。よろしいでしょうか。

(参加者)

ありがとうございます。

(市長)

ありがとうございます。また、いろいろと僕のほうも勉強になることを教えていただいて、ありがとうございました。今後の市政のいろいろ決めていくための参考材料にさせていただきたいと思います。

僕の私生活も、子どもにまつわることのほうも、1回学校へ行かなきゃなって思っちゃったものの材料も与えていただいて、大変僕にとっても勉強になりました。本当にありがとうございます。

(参加者)

ありがとうございました。

（改革推進課長）

それでは、様々なご意見をいただきまして、ありがとうございました。

これをもちまして、市長と本気で語るタウンミーティング「言っちゃお！市長と。」を終了させていただきます。

それでは、配付いたしましたアンケートにつきましては、ご記入いただきまして、担当者までご提出をお願いいたします。

本日はどうもありがとうございました。

（市長）

どうもありがとうございました。

— 了 —